

兵を置き、以て新疆往還の門戸と爲し、天山南北に糧餉を運轉するの處とす。東干トシガンの亂、或は兵燹に罹り、或は叛民の毀壞に罹りしも、後漸次修繕を加へて、方今稍々舊態に復するを得たり。

附 巴里坤パリゴン

巴里坤は鎮西直隸廳の在る處、東經九十三度三十五分、北緯四十三度四十分、位置し、北京を距ること、實に一千二百二十二里あり。

此處には滿、漢の二城あり、其の漢城を鎮西と稱し、雍正七年(千七百二十九年)の建設に係り、鎮西廳鎮臺衙門は即ち此に置かる。又滿城は乾隆三十八年(千七百七十三年)之を築き、惠寧と名づけて漢城と毘連す。城壁高さ底厚共に一丈八尺、頂厚一丈二尺、周圍數十町に亘れり。蓋し當城は、天山北路の門戸にして、其重鎮たること、哈密と同じ。

此地、漢には蒲類國、北魏には高車の地、唐には蒲類縣、宋には高昌の地、元に回鶻の地、明には準噶爾の占據する所と爲りて、一名巴爾庫爾と云ふ。城内に關帝廟あり、廟中、後漢の順帝の時、設立せし石碑一基を存すと。